

コロナで変わる英国と世界～エコノミスト記者の見方

2020年7月31日

講師：ヘンリー・トリックス

英エコノミスト誌 シュンペーターコラムニスト

経済広報センターは7月31日、英エコノミスト誌のシュンペーターコラムニストであるヘンリー・トリックス氏を招き、「コロナ対応の教訓と政治経済への影響～日英比較を踏まえて」と題するオンライン会合を開催した。会員企業などから約40名が参加した。

東京支局長の経験もあるトリックス氏は、英国のコロナ感染者の多さ（当時約30万人）に触れたうえで、日本はコロナ対応に成功した国と認識されており、マスク着用の習慣が英国にも取り入れられていると述べた。また、欧州全般の経済状況を鑑みると、第2波が来たとしても2度目のロックダウンを実施することは難しいとの見方を示した。

英国の外交問題へのコロナの影響については、Brexit関連の各種交渉が停滞したことに加え、トランプ政権の弱体化や、香港への国家安全法施行で拍車がかかる対中関係の悪化を挙げたうえで、英国が孤立するリスクを避けるために、今後EUとの妥協や日本との関係強化が模索される可能性があるとして述べた。

コロナが加速させている社会のデジタル化については、eコマースや電子決済分野の急成長が雇用や経済の下支えになっていると評価した一方、リモートワークが定着していくかを判断するには、生産性への影響を見極める必要があると述べた。また、デジタル分野における米中対立の激化により、どちらかの側に立つことが求められている現状への懸念を示した。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/>

<http://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。